今日の講義：デンマーク（世界で一番幸せな国）：福祉と生涯学習について

デンマークの歴史：　今「世界で一番幸せな国」と国民が思っている国がデンマークです。この国は福祉制度ばかりでなく、「フォルケフォイスコーレ」という宿舎付きのユニークな生涯学習施設でも有名な国です。この国については明治時代に内村鑑三も「デンマルクの話」という本を出して紹介しています。この前の講義のフランスの「新しい生活程制度」は、これから先進諸国は低所得、就職難の時代になり、若い世代は私達のような安定雇用の時代とは違ってくる中で、このコロナ以降の福祉にヒントなるかと思いました。

１．デンマークの歴史（明治維新の頃まで）

ディーン人の国・ロシア・スカンジナビア半島・ポーランドに囲まれた**バルト海**と英仏独蘭ネーデルランドに囲まれた**北海**という、二つの海を分けるユトランド半島の国
・面積は九州程、人口は九州の 40%程、

10 世紀 ハーラル 1 世（青歯王・在位 958 年? – 985 年）キリスト教に改宗、
デンマーク王国として統一国家(ルーン石碑が現存、その“青歯王”)
中世には、バルト制海権を握る大国としてノルウェー・スウェーデン・ドイツ北部を領有

※ディーン人は、ヴァイキング時代（Viking Age、800 年 - 1050 年）約 250 年間に西ヨーロッパ沿海部を侵略したスカンディナヴィア、バルト海沿岸地域の武装集団を指す。ゲルマン民族移動の時代に、スカンジナビア半島から到来し、ユトランド半島まで進出。

- 15C(1397/デンマーク・カルマル同盟（マルグレーテを実質的女王とする同君連合）
バルト制海権を握る大国・バルト海と北海という、二つの海を分ける位置の国）

1523 年にスウェーデンがデンマークから分離独立する（独立戦争）
1520 年「ストックホルムの血浴」対スウェーデン 300 年の戦争へ
次々に戦争へ（30 年戦争→**大北方戦争＝ロシアが大国へ**→ナポレオン戦争→**シュレースヴィヒ戦争（1864/02-1865/10）（ユカタン半島の付け根部分・暖かく肥えた土地を巡って**
プロシャに負けて、割譲される。

２，「大国主義から小国主義への転換」

- **「外に失いしものを内にて取り戻さん　（*Hvad udad tabes, skal indad vindes*）**
（1865 年以降の大転換）小国となって、自力で再生を図る

一つ：残された北部の国土に植林・国土の再興

二つ：国民の知恵の力の涵養

「内発的で非帝国的な道」⇒残された二つの力に期待をかけた

① 大植林活動

- 対プロイセン戦争後除隊の工兵士官・エンリコ・ダルガス

（36 歳・1828 年‐1894 年）は、ユグノー 教徒の宗教精神に導かれ

貧農多数を組織して， 1866 年にヒース協会を設立

もみの木がこの地で大木になるまで

寒さや荒れ地に強いノルウェー産のモミの木→枯れる→ノールウェー産モミの間に、アルプス産の小モミの木を植える→ 不思議にも、その 2 種類のモミの木は、互いに助け合う→でも建築用資材になる程は大きくならない→ ある程度育ったら小モミを取り除く→モミは育ち上がり、建築用資材になれる、大森林が広がった。

現在のデンマーク

茂った林で、海岸からの砂ぼこりと北海岸特有の砂丘をくい止めた。

肥えた田園地帯に生まれ変る・新しい町村が生まれ、牛馬を飼う牧場も次々に、バター、チーズは輸出産品、世界でも屈指の豊かな国へ （明治時代に内村鑑三の「デンマルク国の話」）

森は雲を呼び，雲は雨をもたらした。雨がよく降るようになると，気候は 温和となり，土壌が肥沃になった。国土の生産力の増強、増進。大モミの林のおかげで、ユトランド半島は肥えた田園地帯に生まれ変わった。木材が与えられた上に、よい気候が与えられ、豊かな土地と農作物が与えられた

内村鑑三 デンマルク国の話 信仰と樹木とをもって国を救いし話（aozora.gr.jp）
https://www.aozora.gr.jp/cards/000034/files/233_43563.html

- 敗戦のために意気の衰えていた国民は希望を取り戻し、ひたむきな研究と我慢強い実行、誠実な協力によって、荒れ地を緑の野とし、祖国を甦らせ、ついに今日のような豊かな国家をうち建てることができたのです。
- https://blog.goo.ne.jp/in0626/e/372c446a40ee7f056db27be5946a60ba

② 国民の生涯教育施設→国民の考える力を涵養

- 1964 グルントヴィ（1783 年 9 月 8 日 - 1872 年 9 月 2 日）キリスト者

（ユグノー派）・農民の生涯教育、宿舎付きの学校

フォルケホイスコーレを提唱

施設の提供は、1864 年から 1872 年の間に 61、どんどん開設

・教育方針： 1)書物ではなく、人間が実際に話す言葉、2)人生の啓蒙、
3)他者との自由な相互作用により、互いの存在の承認、
4)生活に根差した知が重視され、出身地域や階級も様々な人々が
出会い共に生活し学び合うことを重んじられた。

母国語で、良く話し合い、学び合う、コミュニケーション
自分達の力を認め合って、協働のパートナー同士に育つ生涯学習

デンマークの国民性； 3 人集まれば、アソシエーション（組合団体協会）を作る

- 1866 年世界で初めて農業協同組合が作られ、
- 20 世紀に入り近代工業化が進み農村で働いていた人が都市労働者となり、
  農業協同組合の経験を生かし、そこでも労働組合を作っている。
- 突然の解雇や事故、病気になったとき 困らないよう、組合員たちが助けあえる
  「共生・連帯」の精神が「社会福祉国家」 へと受け継がれたと。

第二次大戦中もナチスは根付かなかった
力関係を考慮して武装抵抗はせずに，無血で占領を受け入れる，
1943 年 10 月 1 日・ユダ ヤ人の強制移送命令が発令・
1500 人のドイツ人警察官がユダヤ人狩り・翌 10/2 全土で 281 名のユダヤ人が逮捕

・10 月 1 日から数週間 東岸 45 の港から 8000 人のユダヤ人が船で中立国スウェーデンへ・
脱出を敢行、この時デンマーク民衆が多大な支援する。
デンマークにいたユダヤ 人の 95%が脱出・54%は，18 歳以下の子どもたち
大戦末期には、ドイツ軍への協力拒否の非暴力抵抗運動が，国王を先頭に国民総ぐるみで

童話作家，ハンス・クリスチャン・アンデルセンの国で、コペンハーゲン市内にあるアンデルセンの代表作「人魚姫」の銅像は，人気の観光スポットのひとつ。思想家のセーレン・キェルケゴールや小説家のカレン・ブリクセンも，世界的に知られたデンマーク人。またデザイン性の高いライフスタイルプロダクトを多く生産しており，レゴ（玩具），ロイヤル・コペンハーゲン（陶器），ジョージ・ジェンセン（銀器）等のブランドが有名。

3，植民地の動向

・17 世紀から 20 世紀まで、ノルウェーの支配を通して
フェロー諸島、グリーンランド、アイスランドなどを保持し続けた、

・クリスチャン 4 世（1588—1648）ドイツ新教徒援助を名目に***三十年戦争***に介入して敗北・他の欧州諸国と同様に重商主義政策し、デンマークは貿易を拡大、1620 年にインド南岸の**トランケバル**（現・インドタミルナドゥ州タラガンバディ）に最初の植民地を建設、

・東インド会社：イギリス東インド会社以上に茶の輸入、デンマーク、スウェーデンの両東インド会社はナポレオン戦争の間も経営を続け、西アフリカのデンマーク領黄金海岸にも植民地や要塞を経営し、奴隷貿易にも参画していた。

・1671 年にはカリブ海・**セント・トーマス島**・1718 年にセント・ジョン島に植民地を建設、1733 年にはフランスからセント・クロイ島を買収。　　トランケバルとカリブ海の植民地を約 200 年間→デンマーク東インド会社は**トランケバル**内外で活動

3，デンマークの福祉・社会保障制度

高齢者福祉の三原則

①生活の継続性に関する原則（ “在宅介護”の充実）

（これまで暮らしてきた生活と断絶せず、継続性をもって暮らす）

※入院・入所による「リロケーションダメージ」を防ぐ・

② 自己決定の原則（高齢者の尊厳の尊重に関わる原則です。）

③ 残存能力の活性化に関する原則

福祉の原則

国民全体への福祉サービスは税金で賄い、賃金からの社会保険料を上のせ（年金も同じ）

疾病給付・日本の介護サービス・年金・失業給付が金銭給付(手当)は税金

高齢者委員会制度がある。（各市町村に設置が義務付けられている委員会）

60 歳以上の住民による選挙で選ばれ、市町村の議会に助言や提言をする役割

社会保障の原則；アクティヴェーション→ワークフェア（就職活動を支える福祉）

所得保障＋医療介護保障＋**住宅保障「エイジング・イン・プレイス（Ageing in place）」**

高齢者福祉中心の住宅政策：高齢者住宅で「必要なときに，必要なだけ」24 時間体制ケア定められた 110m2（33 坪）以下、自立型 60～80（18～24 坪）m2，介護型 40m2 （12 坪）

2019/06/15　選挙で、4 年ぶりの政権交代→福祉重視の社民党へ（移民問題もある）